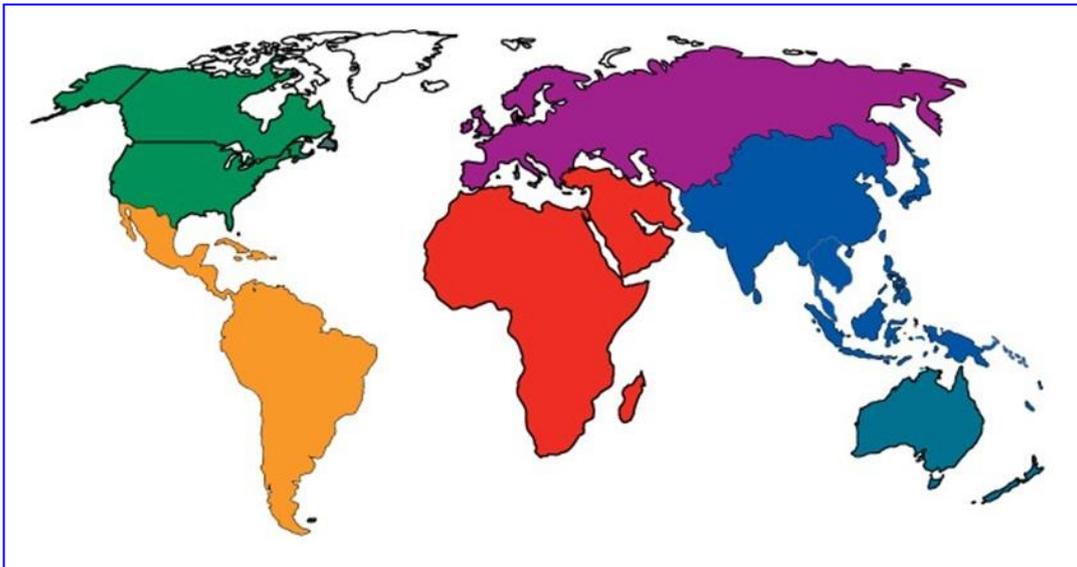




friendship force
SAITAMA

会報 85 号
創立 20 周年記念特集

A World of Friends is a World of Peace



Changing The Way You See The World

目次

● 創立20周年記念式典・祝賀会：	
・プログラム	1
・記念式典	1
・サイレントオークション	2
・祝賀会	3
・20周年記念実行委員会 他	5
● 20年間の渡航・受入一覧	6
● 2003年から最近10年間の渡航・受入の記録：	
	8



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 20周年記念特集 会報 85 号

創立 20 周年記念式典・祝賀会(2012 年 11 月 6 日ラフォーレ清水園で)

プログラム 第 1 部 式典 Ceremony(12:00~12:30) 奏楽 Music 会長挨拶 Welcome Greeting 来賓紹介 Introducing guests 来賓挨拶 Speeches by guests 閉会 Closing 休憩 オークション(Silent Auction) (12:30~13:00)	第 2 部 祝賀会 Celebration(13:00~15:00) 奏楽 Music 実行委員長挨拶 Greeting by chairman 乾杯 Toast ピアノ演奏 Piano performance 落札者発表 Winning bidder in an auction ジェンカ Folk dance FF の歌 Let There Be Peace on Earth 閉会 Closing
---	---

・ 記念式典



沼会長 挨拶

恵まれております。世界大会でブラウン会長も言われましたように、フレンドシップ・フォースが今後も発展を続けるためには、次のようなことが大切と思われまます。「友情と平和」の世界を築くために貢献

埼玉クラブは、1992 年に当時東京クラブの会員だった佐藤ゆきえさんが立ち上げられました。20 年後、多くの皆様方と共に盛大に祝賀の会を持つことができましたことを心からうれしく存じます。

20年を振り返りますと、9・11や昨年の大震災で交換がキャンセルになることはありましたが、埼玉クラブは、これまで渡航にせよ、受入れにせよ、多くの会員が積極的に参加し、活発に活動を続けてまいりました。新しい会員も増え、将来リーダーになっていただける豊富な人材にも

したいという使命感(FF のミッション)、新しい魅力的なプログラム(楽しい活動)、そして、それを支える多くの人の輪(ボランティア)です。

20 周年を機に、埼玉クラブもさらなる発展をめざして挑戦していきましょう。

フレンドシップ・フォースを通して、会員の皆さまひとりひとりが自分の持つ力を発揮し、友情を育みつつ、ご自分の人生を豊かなものにしていかれますよう願っております。

来賓による お祝いのスピーチ



FFI 会長の祝いの言葉

Dear friends,

Congratulations on the occasion of the 20th anniversary of the founding of the Friendship Force of Saitama. Through these past 20 years, the Friendship Force of Saitama has provided outstanding exchanges, promoting international goodwill through hundreds of personal relationships.

I am sending these remarks on behalf of the whole Friendship Force community around the world. As you gather to celebrate your achievements, I want all of the members of your club to remember the important place you hold in the Friendship Force family. I hope your members will feel a real accomplishment in reflecting on the friendships you've made over the years.

As you know, earlier this year we observed the 35th anniversary of our global organization, and at this time we are all thinking about the future of the Friendship Force. For that reason, I am especially proud of the Saitama club. Your dedication and enthusiasm for the Friendship Force mission has made you a strong club. Your dedication and enthusiasm will continue to bring you success in the future. With the continued strength of clubs like Saitama around the world, I am convinced the Friendship Force will succeed in helping build a world of friends that can be a world of peace.

In friendship,
George T. Brown, Jr.
President

・サイレントオークション (売上げは、FFI に贈呈)



岸田実行委員長から FFI Staff に売上げを手渡す

・ 祝賀会

岸田 正二郎 創立 20 周年記念事業 実行委員長 挨拶



フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉は 2012 年 11 月に創立 20 周年を迎えました。何か 20 周年記念事業を行うことになり、2011 年 6 月に記念事業実行委員会を立ち上げて討議をし、式典、祝賀会、ハンドブックの改定、ニュースレター 20 周年記念号の発行に決まり、準備をしてきました。

その最大のイベントとも言うべき、式典・祝賀会は 11 月 6 日、FFJ からは愛知和男顧問、石井嗣代 FR-C、

東京クラブ会長、西東京クラブ会長のご臨席を頂き、FFI 関係者としては、日本人理事の余村とこさんのほか 理事・スタッフなど、来賓全体で 10 名の方々のご臨席を頂き、総勢 76 名が参加して盛大に行われました。

式典と祝賀会の際には、会員の皆様から提供して頂いた品物のオークションが行われ、65,000 円を超える売り上げがありました。この金額に更にクラブからのものを加えて、FFI への寄付としてその場で、FFI スタッフへ贈呈されました。

改定されたハンドブックは、式典当日受付と同時に会員の皆様に手渡しされました。今後のフレンドシップ・フォース活動において、活用して頂きたいと思えます。

ニュースレター 20 周年記念号は、2013 年年初に開かれる年次総会時に配布の予定です。

最後になりましたが、記念事業実施に当たり、熱心に討議を重ねて頂いた実行委員の皆様を始め、オークションの品物を提供してくれた方々、刊行物の編集をしてくれた方々、その他各種の準備をしてくれた方々に心より感謝いたします。



来賓と副会長



会食を楽しむ皆さん



ピアノ演奏: 高橋京子



Folk Dance ジェンカで結ぶ絆



佐藤 ゆきえ FF埼玉 初代会長

2012年11月28日、私は深い感慨の中でこの日を迎えました。20年前、フレンドシップ・フォース・埼玉が誕生した日でした。以来、つまずき、転びながらも立派に成長し、成人式を迎えたのです。

その間に常に念頭に置いたのは、フレンドシップ・フォースの理念に基づいた活動であり、どんな背景にある会員もみなが同じように楽しめる活動でした。そしてまた、埼玉を訪れる人々には、どうしたら心地よく滞在してもらえるかを最優先して考えることでした。

そのためには、自分たちにとってはとても大変な苦勞を伴うことであっても、それに対して黙々と働き、協力を惜しまなかった会員の皆さんには、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

フレンドシップ・フォースのお蔭で、世界のあちこちに心を許しあえる多くの友達ができました。



そしてその友だちは、これから先もずっと私の宝物です。

海を隔てた遠い異国に住む友の顔を思い浮かべること、自然に笑顔になれる自分がいます。

この魔法のようなフレンドシップ・フォースが、私は大好きです。

いつの時代になっても紛争の絶えない私たちの地球にも、ぜひこの魔法が通じてほしいものです。

20歳を迎えたフレンドシップ・フォース・埼玉は、いま親の元を完全に離れて独立していったように思えます。

これからどんな歩みを見せてくれるのか、親として静かに見守りたいと思います。

堀内 美紀子 FF埼玉 第二代会長

FFと私との出会いは、約18年前になります。

当時参加していた、地域での国際交流団体において初代会長と出会ったことがきっかけです。

初めての渡航は、それから2年後の1996年、ウィスコンシン州マディソンへの渡航でした。

FFの活動とは、世界の友人たちと渡航、受入れを通して交流し、お互いを認め合い友情を深め、世界の平和を願うことであるということに大変魅力を感じ、その後様々なFFの活動に参加していくことになりました。

2003年からは、二期会長を務めさせていただくことになりましたが、語学が得意でない私も、会員の皆様に



支えられ、ハートだけで十分にコミュニケーションがとれ、世界中にたくさんの友人たちができ、素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝しております。

入会からの16年の間に、5周年、10周年、そして、この度の

20周年を皆様とともに迎えられたことを大変嬉しく思っております。

これからも「友情でつながれた世界は平和な世界」というFFの理念が、末永く引き継がれていくことを願っております。

・ほかにお祝いの言葉を頂いた来賓：石井FR-C、渡辺東京クラブ会長、柳川西東京クラブ会長、余村FFI理事、Ana FF Kern County Club 次期会長など。

・20周年記念実行委員会 委員長：岸田正二郎

1. 式典・祝賀会：堀内美紀子リーダー

- 1) 式典担当：西村純枝、新井ミキエ、五十嵐佑子、岩崎倉子、小林恵美子、沼純子
- 2) 祝賀会担当：堀内美紀子、岸田節子、児島英子、高橋京子、高畑美千子、角田和江、野澤明子、増田信枝

2. 刊行物：佐藤ゆきえリーダー

- 1) ハンドブック担当：佐藤ゆきえ、沼純子、岸田正二郎、堀内美紀子
- 2) 記念会報担当：池田完之、斎藤文子、西村介延、羽島継男、原田史、平井義明、堀切京子

3. 会計：中林八重子、浜敬子

・式典当日 進行担当 司会：堀内美紀子、全体把握：野澤明子

受付：五十嵐佑子、浜敬子、小林恵美子、中林八重子

会場接待：新井ミキエ、増田信枝、児島英子

祝辞代読：西村純枝

サイレントオークション：西村純枝、岩崎倉子、高畑美千子、角田和江

ピアノ演奏：山本久美子、高橋京子

閉会挨拶：新井ミキエ

20年間の渡航・受入 一覧

年度	渡 航	受 入	その他
1992			1992年11月28日 設立総会 初代会長 : 佐藤 ゆきえ
1993	Puget Sound/Olympia, WA, USA 9月27日～10月12日 26名 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ¥170,000 返金¥10,000	Cheyenne, WY, USA 8月17日～24日 先方クラブの都合により中止	
1994	Kiel/Cottbus, Germany 23名 6月10日～25日 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ¥260,000 返金¥30,000	Madison, WI, USA 26名 11月4日～11月11日 ED 島田 信子	
1995	Sunshine Coast/Tamworth, Australia 3月9日～22日 22名 ED 延島 晶子 参加費 ¥235,000	Brisbane, Australia 25名 5月24日～31日 ED 三戸 静香 Manawatu, New Zealand 先方クラブの都合により中止	
1996	Madison, WI, USA 2週目 ナイアガラ滝・カナディアンロッ キー観光 27名 6月12日～20日 ED 須藤 淑子 参加費 ¥163,000	Sydney, Australia 25名 5月8日～15日 ED 中江 美三 Denver, CO, USA 24名 9月28日～10月4日 ED 大岩 典子	•Volunteer of The Year 1997 International 受賞 :佐藤 ゆきえ
1997	Manchester/Bristol, UK 25名 9月19日～10月4日 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ¥230,000 返金¥30,000	Kiel, Germany 15名 4月21日～28日 ED 佐藤 ゆきえ	•ブリッジビルダーズ・エクスチェンジ Los Angeles 盆栽愛好家 22名 6月21日～28日 ED 佐藤 ゆきえ •FF埼玉創立5周年記念祝賀会 12月6日
1998	Arnhem, The Netherlands/ Flanders, Belgium 6月25日～7月9日 埼玉18名 札幌 7名 ED 小高 雅子 参加費 ¥210,000	Santiago, Chile 20名 5月15日～22日 ED 堀内 美紀子	Devon, UK 31名 10月30日～11月3日 ED 佐藤 ゆきえ
1999	Accra, Ghana 19名 10月7日～16日 ED 飯沼 和華子 参加費 ¥295,000	Sunshine Coast, Australia 28名 3月11日～18日 ED 嶋田 澄江 Cottbus, Germany 22名 7月31日～8月7日 ED 佐藤 ゆきえ	埼玉県知事より感謝状
2000	Sunshine Coast, Australia/ Hamilton, New Zealand 38名 ED 金子 恒夫 参加費 ¥175,000 返金¥6,500	Flanders, Belgium 14名 7月14日～22日 ED 柳 道子	第14回日本大会 参加160名 5月20日～21日 於 浦和ワシントンホテル
2001	Kern County, CA /Kauai, HI USA 10月9日～24日 ED 佐藤 ゆきえ 9月11日 米国テロ事件のため 渡航中止	Winston Salem, NC, USA 12名 6月2日～8日 ED 佐藤 ゆきえ	
2002	Lubeck /Bockhorn, Germany 23名 6月7日～24日 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ¥190,000返金¥9,350	Accra, Ghana 19名 9月12日～19日 ED 飯沼 和華子 キャンセル	•創立10周年記念式典・祝賀会 :10月14日 •10周年記念植樹 :10月17日 さいたま市 市民の森
2003	Kern County, CA /Kauai, HI, USA 10月4日～19日 21名 ED 堀内 美紀子 参加費 ¥180,000	Minsk, Belarus 18名 4月2日～9日 ED 綿部 恵美子	第二代会長 : 堀内 美紀子

年度	渡航	受入	その他
2004	Salisbury, Australia 19名 3月21日～30日 ED 沼 純子 参加費 ¥157,000 Minsk, Belarus(キャンセル) 7月1日～10日 ED 佐藤 ゆきえ	Seoul, Korea 21名 5月31日～6月6日 ED 細矢 康子 Curitiba, Brazil 30名 8月30日～9月6日 ED 堀内 美紀子	
2005	Hertfordshire/Cleveland, UK 20名 6月7日～21日 ED 堀内 美紀子 参加費 ¥174,000(一週間)返金¥26,735 ¥200,000(二週間)返金¥23,779	Riga, Latvia 16名 5月11日～18日 ED 岸田 節子 Kauai, Hawaii, USA 19名 10月1日～8日 ED 野澤 明子	
2006	Huntsville, AL/Louisville, KY, USA 9月10日～25日 18名 ED 稲垣 洋子 参加費 ¥197,938	Salisbury, Australia 13名 4月3日～10日 ED 沼 純子	
2007	Fraser Valley, Canada 20名 6月17日～6月25日 ED 沼 純子 参加費 ¥159,952 Seoul, Korea 16名 10月5日～10日 ED 佐藤 ゆきえ 参加費 ¥92,395	Kern County, CA, USA 22名 3月28日～4月4日 ED 児島 英子 San Antonio, Tex, USA 16名 11月8日～11月15日 ED 堀内 美紀子	第三代会長 : 沼 純子
2008	Riga, Latvia 14名 7月4日～12日 ED 岡田 一夫 参加費 ¥260,000	Huntsville, AL, US 21名 4月1日～7日 ED 稲垣 洋子	
2009	Horowhenua & Wellington, NZ 20名 10月30日～11月14日 ED 新井 ミキエ 参加費 ¥204,000(一週間) ¥221,800(二週間)	Taichung, Taiwan 19名 3月24日～30日 ED 池田 完之	
2010	Mid-Willamette Valley, OR /Dubuque, IA, USA 17名 10月1日～15日 ED 池田 完之 参加費 ¥219,050 返金¥6,600	Penticton-Okanagan, Canada 18名 4月1日～8日 ED 岸田 正二郎	Oklahoma club のオランダ渡航 に9名参加。9月7日～14日 Netherland East Club 訪問。
2011	Filobobos, Mexico 3月11日～23日 ED 五十嵐 佑子 (3.11 災害で渡航中止)	Bristol, UK 25名 4月16日～23日 ED 西村 純枝 (3.11災害で中止) Kapiti Coast, NZ 21名 5月26日～6月2日 ED 沼 純子 (3.11災害で中止) Mid-Willamette Valley, OR, USA 14名 10月27日～31日 Stop Over ED 西村 純枝	・3.11 東日本大震災で、予定していた 渡航と受入は中止。 ・ドイツ ハンブルグ世界大会 (8月26日～30日)に21名参加。 ロードランナー賞受賞。 ・タイ チェンマイ Asia Pacific Festival (11月7日～17日)に11名参加。
2012	Leicestershire, UK 20名 5月23日～30日 Leuven, Belgium 18名 6月1日～8日 ED 稲垣 洋子 参加費 ¥192,300(一週間) ¥252,000(二週間)	Shelby, NC, USA 16名 3月30日～4月6日 ED 高橋 京子 Chiang Mai & Bangkok, Thailand 9名 Stopover 4月10日～12日 Mt Barker and Salisbury, Australia 20名 9月14日～21日 ED 新井 ミキエ	・広島世界大会10月31日～11月2日 ・大会前後のホームステイ ベルギー:2人、USA:4名 タイ:6名 ・創立20周年記念式典・祝賀会 11月6日

2003年から最近10年間の渡航・受入の記録

ベラルーシ、Minsk Club 18名 受入 2003年4月2日～9日 ED 綿部 恵美子



茶道体験 03



折り紙

ミンスクのアンバサダー19名は岐阜クラブでのステイのあと、4月2日に埼玉に到着9日早朝成田空港から帰国するまでの1週間の受入を無事終了しました。

準備段階から先方とのコミュニケーションの手段がFAXと電話のみという状態で、そのFAXもなかなかすぐに送信できず、苦労の連続でした。

滞在中、ほとんどのアンバサダーが観光目的だったらしく、ホストがたてていたプランにも関わらず、「あそこに行きたい。ここに行きたい」とホストたちを悩ますことが多かったことが、反省会に出た意見でした。

事前に一週間のプログラムを先方EDに送ったにもかかわらず、アンバサダーは何も知らないということが

原因のようでした。

そのため問題が起り、ED同士の話し合いでは解決が難しくなっていました。

そこで堀内会長と佐藤前会長がミンスクED、アンバサダー、ホストと個別にじっくりと話し合いました。

その結果、言葉のバリアからお互いに誤解している部分があることを知り、最後に当事者全員での話し合いを持ちました。

その話し合いは、FF交換の目的までも含めて話し合われ、お互いに納得し合うことができました。

この問題を通じて、何か問題が起きたとき、話し合うことがいかに大事であるか、私達は学びました。

アメリカ 21名 渡航 2003年10月4日～19日 ED 堀内 美紀子
(California, Kern County Club と Hawaii, Kauai Club 訪問)



kern County 野外パーティの食事



Kauai Club とフラダンス

10月4日、1週目のKern Countyへ向けてロスアンゼルスに到着したものの、出迎えのEDの姿が無かったが何とか先方に連絡がとれ、JALのターミナルで待っている事が判り 出会うことが出来ました。

今回は埼玉クラブ(21名)と交流のあるドイツ・コトブスクラブ(24名)の総勢45名のアンバサダーを同時に受け入れたので大変だったと思います。2つのクラブへ2人のEDを選出、準備していく上で各担当者が責任を持って運営していたようです。コトブスのEDとは5年ぶりの再会でしたので懐かしく感じました。

カリフォルニア知事選挙当日だったが Kern County 市庁を表敬訪問し、さいたま市長のメッセージをお渡ししました。 広大な土地で油田、農業の産地の中で生活をし食文化の違いも十分に体験しました。

10月11日コトブスクラブと別れ、すっかり暗くなってか

ら2週目訪問地ハワイのカウアイ島に着きました。出迎えのホストからはハワイ独特の歓迎を受けました。

こちらの市長訪問でも、ハワイアン演奏で迎えられ、その中の日系人のリクエストに従い日本の歌を大きな声で歌ってきました。文化交流の日のことは写真とともに現地の新聞で紹介されました。

また庭園ツアーの際にホストの思い違いからか数名のアンバサダーが参加できませんでした。

今後は、アンバサダーもホストに全面的に任せるのではなく、プログラムの場所・日時を確認することをお願いしたいと思います。

会話力不足の私がEDとなり皆さんの協力で役目を果たすことが出来ました。是非今後多くの会員の方に経験していただきたいと思っています。

オーストラリア (Salisbury Club) 19名 渡航 2004年3月21日～30日 ED 沼 純子



Gawler 市長 訪問



フェアウエルディナー

今回は春休みだったので、高校生、大学生も参加してもらえた意義は大きいと思います。

先方も、年齢構成がさまざまな私達の為に色々心をくわいて準備してくださいました。

市長訪問では FF活動を高く評価し歓迎していただきました。野生動物園でオーストラリア特有の動物や鳥類を身近に眺めたり、抱いたり、えさをあげたりも貴重な体験でした。カンガルー、エミュー、クロコダイルなどの珍味を味わうこともできました。

マレー川クルーズはまさにハイライトでしたし、何回か開かれた Potluck Party と Farewell Party はたいへん盛り上がり、60,70 歳も若者と一緒に歌い踊り、時間の経つのを忘れるほどでした。Free Day には、若い人たちはダンスパーティや映画に、大人も小学校見学やシニ

アの集いに参加するなど、それぞれに現地の人々の生活に触れる機会を作ってくださいました。

今回のホームステイで出会ったオーストラリアの人々は親しみやすく、飾り気の無い方たちばかりでした。ゲイのカップルあり、結婚していない中高年のカップルも結構多いようです。

93歳のおしゃれでチャーミングなEDのお母さん、そのお母さんを多忙の中、毎日訪ねて、ちょっとしたお世話を欠かさぬEDのグレニス、グレニスをしっかり支えるよきパートナーのユージン。

オーストラリアで沢山の素敵な人たちを知りました。

ゆったりと、でも前向きに人生を楽しんでいる人々。

遠来の客のために、心を込めてもてなしてくださったやさしい人々。 本当にありがとうございました。

韓国 Seoul Club 21名受入 2004年5月31日～6月6日 ED 細矢 康子



華巖の滝を背景に

今回の交換は、FF埼玉クラブではアジアの国からの初めての受け入れでした。日本に何度もいらっやられている方が多い中で、どのようにお迎えしたら喜んでいただけるのかと思ひながら、初めてのEDとして不安を抱えながらのスタートでした。

今は無事プログラムも終わり、皆様が元気で楽しく帰国された報告を受けとり、うれしく思っています。ホストを引き受けてくださった会員の皆様、デイホスト、交換委員の方々、パーティーに参加いただいた皆様のご協力によるものと本当に感謝しております。

4日間の北海道旅行を済ませてから羽田へ到着するグループと、直接ソウルから成田へ着く、二つのグループに分散しての埼玉への到着ということで心配していま

したが、ONライナーの大宮駅にほぼ同時に着きほっとしました。

ソウルクラブの会長、EDはじめ年配の方は日本語も上手に話され、読み、書きも、私たち以上に敬語も上手に使われていました。今回のゲストとの交流で、この点が最も相互理解に役立ったのではと思います。私たちが失ってしまった良い面を持ち続けている反面、韓国の若い人たちとの間にもジェネレーションギャップが生じていることなど、お互い会話を通しながら感じられました。

日本を何度も訪問されている人が多いので、プログラムも東京見学よりも日光バスツアーを希望され、この時期にも関わらず、天候にも恵まれた楽しい一日を過ごしました。

私たちの日常生活に浸透している「韓国料理」。料理を通しての文化交流は和やかに進み、フェアウエルパーティーにはたくさんの日韓料理が並べられました。

両クラブの会員の皆様の腕を振るった料理の味を楽しみながらのパーティーは良い思い出になりました。

この日のため食材を運んでこられたソウルクラブの方々にも感謝いたします。そしてチマ・チョゴリを着られたソウルクラブの女性は、パーティーを一層華やかなものにしてくださいました。違いを知り、認め合い、この交流で「近くて遠い国」から「近くて近い国」へと距離が縮まったような気がします。

この交換から今後も両国の文化の交流がいつまでも続くことを望みます。

ブラジル Curitiba Club 30名受入 2004年8月30日～9月6日 ED 堀内 美紀子



30名のアンバサダーと2人の小さな大使が加わった大所帯の受け入れは初めてでした。

埼玉クラブでは通常21名の受け入れですが、昨年12月早々に30名のアンバサダーリストがいきなり送られてきたのには驚きました。そのうちキャンセルがでて少なくなるのではと高をくくっていたのです。

6月に交換委員会を発足させ、交換委員の方々にはそれぞれの担当に分かれ3ヶ月という短い準備期間でスムーズに運ぶことができました。

その中でホストファミリーをお願いするにはひと苦労でしたが、一番心配していた4人家族を引き受けてくださった宇田さん、3人受入の岸田さん、佐藤さんそして積極的に受入れてくれた会員の方々に感謝でした。

身内にも2人のアンバサダーのホストを頼み、無事マッチングできたときはほっとしました。

また、昨年のミンスクを受け入れた時と同じく、ビザの申請書類を用意する必要などがあり、メールの返事がなかなか来なかったときには少々困りました。

小さな大使



キャンセルがでた時は追加しないほしいという要望も聞き入れてくれず、来日一週間前にアンバサダーの変更があったりで、まだ見ぬ友人たちにお国柄なのだろうか、不信感を抱き始めていました。

しかし、成田で出迎えた時、笑顔で陽気な姿を見て不信感などすぐに忘れてしまいました。

今回の受け入れはクリチバクラブからだけでなく、リオデジャネイロ、サンパウロ、ブラジリア、レシフェ、ジョンペソアの六つのクラブからの参加でした。また、オーストラリア・サンシャインコーストの友人の参加もあり、八つのクラブの交流となり、この埼玉で互いの友情を築くことができました。

フレンドシップ・フォースの活動は受け入れと渡航が主な活動ですが、特に、これからも受け入れをするときには会員がこぞって協力し合い、助け合い、互いに楽しみ、積極的に交流し、友情を深めてほしいと思いました。最後にこの交換に協力していただいた皆様に感謝いたします。

ラトビア Riga Club 16名受入 2005年5月11日～18日 ED 岸田 節子



大宮駅で出迎え

5月11日から18日までのラトビア・リガクラブ受け入れは、私にとって特別印象に残る交換になりました。

EDとして年明けから準備を始めたものの、何をどうしていいのかが気持ちの整理がつかず、不安に押しつぶされそうになりながら、時間だけは確実に過ぎていきました。

まあ、何とかなるだろうとひらき直り、成田空港で迎えた

アンバサダーは16人(女性9人、男性7人)、10代から60代と巾がありました。

歓迎の気持ちと長旅の疲れを労う言葉がけをしたかったのですが、自分の語学力ではままたならず、これからの一週間が不安になりました。

そんな中で自分のアンバサダーと顔を会わせたら、これまでのモヤモヤが吹き飛んでしまいました。

ピンクの髪、天真爛漫、さっぱりした気性のラッサと、彼女を包み込むようなやさしい笑顔の夫ゲナディス夫妻との一週間はあっという間に過ぎていきました。

今、あの時のアルバムを見ていると、いろいろ思い出されます。アンバサダー、ホストはそれぞれの受けとり方で、成果は違ってくると思いますが、ホストの側から言えることは、自分が交換を楽しみと感じられるなら、相手にもそれが伝わるような気がしました。

それを信じて交換を続けていきたいと思いました。

会員の皆さんの自覚と努力により、ラトビア受け入れが無事に終わったことに感謝します。

ありがとうございました。

イギリス 20名渡航 2005年6月7日～21日 ED 堀内 美紀子
(Hertfordshire Club と Cleveland County Club を訪問)



ティーパーティで

一週目のハートフォードシャーではお天気に恵まれました。ロンドンに近いクラブでしたが、会員が広範囲に在住しており、全員集合の行事のときは片道2時間もかかる方などがいて、とても大変そうでした。ホストされていない会員が何度かに分けて夕食に招待してくれたり、誕生日会に招待してくれたり、ポトラックの時の料理担当をしたり、会員同士が助け合っている印象を受けました。

Black Country Museumへの老若男女総勢60名のバス旅行、英国王室の居城であるWindsor城へのミニバス旅行、自分たちだけで電車を乗り継ぎ、地下鉄、二階建バスを利用し、ロンドン観光をしたのも良い思い出です。

移動日は5人の仲間と別れ、クリバランドカウンティーへ4時間少々バスの旅となりました。イギリスの田園風景を眺めながらですので時間を感じず、新しい友人たちとの対面でした。湖水地方Bownessへのバス旅行は、車窓で緑いっばいの風景を楽しみ、散策の時は雨に降ら

れ残念でしたが、あの有名な絵本「ピーターラビット」の世界だと思っただけでも満足でした。北イングランドの古都Yorkへのバス旅行先では、散策、買い物のお天気も良かったのですが、次のMarket Town of Helmsleyは集合時間に稲妻と雷が鳴り、発車して間もなくどしゃ降りとなり、途中心配しながら帰路につきました。

次の朝のニュースではHelmsleyは大洪水となり行方不明者が出たほどの水害に見舞われており、あと少し遅い出発でしたら帰れなくなっていたようです。

フリーデイの時は、ホストの案内でキャプテンクックとドラキュラの故郷Whitbyへ、デイホストの案内でDurhamに行き、ダラム大聖堂に感動しました。

何処へ行っても街全体が絵のような美しさなのは、古いものを大事に使い、新しいものも周りの調和を考えて建てられ、生活しているからでしょうか。

私の二週目のホストはEDであり、会長でもあったので、お互いのクラブの活動についていろいろ話ことができました。

その中で、たとえ語学力がなくても努力の仕方によって解決できることを再確認できました。そして「いつでも待っている」と何度となく言われたことが嬉しく、友情が深められたと感じ、私なりに有意義な一週間となりました。

最後にホストの皆さんからも「とても良いクラブを迎えた」と言っていた時には感激しました。

これもアンバサダーの皆さんひとりひとりが、ホストと共に心から交流を楽しみ友情を深めたからだだと思います。

アメリカ Kauai Hawaii Club 19名 受入 2005年10月1日～8日 ED 野澤 明子



カワイ・ハワイ 受入れ

文化体験/ハワイ大宮・2005/10/6

「EDがホストを兼ねず、多くの会員の参加と協力で！」と発足した交換委員会でしたが、限られた予算と条件の中で、計画を進めていくことは大変でした。しかし積極的に申し出てくれたメンバーを中心に、FFの精神を理解し、アイデアを出し合い、多くの意見交換をしたことで、会員同士よく知ることも出来ました。

再会の方々や、89歳、90歳の会員を含む19名、これがFFの交換と思いつつも、高齢者の方を受け入れるホストの方々の負担も気になりました。快く引き受けて頂いた

ことは、EDとしてとても嬉しいことでした。

今回の交換は、多くの会員が交換に携わり、楽しさと喜びを「感じてもらいたい！」ということが私の願いでした。日光のバス旅行では、アンバサダーとデイホストの交流がうまく出来たこと、日本文化体験では、各々が得意分野で力を発揮していただいたことなど、EDの足りないところを助けていただき、感謝の気持ちで一杯です。

これからも、積極的にFF活動に参加し、会員同士が更に友情を深め合うことが出来ますように願っております。

オーストラリア Salisbury Club 13名 受入 2006年4月3日～10日 ED 沼 純子



今回の受入は、直前に病気などで5名のキャンセルがあり、13名となりましたが、アンバサダーはみんな元気に埼玉での日々を楽しんだようです。

お目当ての桜もピークは過ぎていたもののまだまだ美しく、特にバス旅行の日は好天に恵まれて、小金井公園では桜の花びらのじゅうたんを踏みしめながら、見事な満開の桜を見ることが出来ました。深大寺の蕎麦や英語のガイド付きで散策した「江戸東京たてもの園」も日本文化の紹介として良かったと思います。運よくその日はバスの車窓から富士山もくっきりと見えました。「ウェルカムランチと日本文化体験」や「フェアウェルパーティー」も好評でした。

バス旅行を含めたこれら3つの受入行事だけで参加者は述べ130名以上に及びました。フリーデイの

友人、知人、隣人などとの交流を含めると多くの人々にフレンドシップを知っていただく良い機会になったと思います。交換委員、ホストファミリー、デイホストなど本当に沢山の方が一生懸命に動いて下さいました。無事に楽しく受入を終えることが出来たのは、皆様のお陰と心から感謝しています。

その一方で、大勢の人が準備に携わるため、プログラムの細部の打合せや確認が不十分な点も出てきますので、EDとしてそれぞれの交換委員会(今回は20名余の交換委員が、ホストマッチング委員会、送迎委員会、「ウェルカムランチと日本文化体験」「バス旅行」「フェアウェルパーティー」のそれぞれの催事委員会、ワークショップ委員会、会計委員会に分かれて活動)にどこまで深くかかわっていけばよいのか、今後の課題です。私自身は重要事項の合意の上で細部は各委員会に任せるのが良いように思われます。

世界中の50数カ国のクラブを対象にしたFFIのアンケートでは、渡航、受入いずれでも、日本はオーストラリア、ドイツについて高い評価を受けています。これは、日本が美しい自然や豊かな伝統文化を持つ国であること、さらに日本人が相手の気持ちを思いやり、誠意を尽くす国民だからではないかと思えます。私達は、ささやかながら、日本のイメージアップにも貢献しているのではないのでしょうか。

日本の伝統や文化を大切に守りつつ、その良さを世界に伝えていくことの意義を改めて感じています。

アメリカ 18名 渡航 2006年9月10日～25日 ED 稲垣 洋子
(Alabama, Huntsville Club と Kentucky, Louisville Club を訪問)

初めてEDを引き受けて、第一に仕事の多さにびっくりしました。早速、会計、ワークショップ、タイプと色々な方に分担し、助けられました。

私は先方のEDとメールのやり取りを密にして、十分に理解し合うよう努力し、その経過の一部は毎回ワークショップでも皆さんにお知らせしてきました。

その為か滞在中は緊張する場面もなく自然体でいられたと思います。

アンバサダーは1週間もすると耳が慣れて、少しずつ英語が聞き取れるようになったようです。後半は、博物館でも州議事堂でも通訳なしで過ごしました。

ホストやデイホストがゆっくりやさしい英語で熱心にアンバサダーに説明し、それを聞き、質問している姿は和やかで印象的でした。

“英語がよくわからなかった”と不満に思われた方もあったでしょうが、100%わからなくてもいいと思います。所在無げに後ろからついて来られるホストたちを尻目に、日本語で説明がわかったという経験よりも喜々としてコミュニケーションをとりとする体験の方がはるかに貴重ですし、言葉も身に付くと思います。内容は前もって、又はパンフレットを後で読んでも判るのではないのでしょうか？

ウェルカムパーティーとフェアウェルパーティーでは、私達の心からの感謝が伝わり、盛り上がり最高でした。会場全員で歌った”My Old Kentucky Home”が、今でも聞こえてくるようです。

アメリカ 22名 受入 2007年3月28日～4月4日
(カリフォルニア Kern County Club)

ED 児島 英子



ウェルカムパーティ

桜の花が満開の時に22名のアンバサダーをお迎えすることが出来ました。4月4日から名古屋で開催されるアジアパシフィックフェスティバルにあわせての来日でした。ウェルカムパーティーでは会員との再会を喜びあい、イギリスからのゲストや会員の友人も加わりたくさんの方が参加し、丁度春休み中でしたので会員のお孫さんも一緒に楽しい時間を過ごしました。小さなホストは未来の埼玉クラブを担ってくれることでしょう。

日本文化体験では着物姿で日本舞踊観賞を、春爛漫の雰囲気の中でのお茶席、兜作りと大好評でした。

東京観光ではホストはお休みしていただきデイホストに一日お世話していただきました。天候にも恵まれスカイバスで東京の中心地を一回りした後、浜離宮に行き静かな日本庭園を散策し、水上バスに乗り船上から見

る水辺の桜を満喫しながら浅草へ、それぞれ思いのまま観光、ショッピングと楽しみました。

アンバサダーの年齢や体調を考えた計画でした。

各ホストがアンバサダーとメール交換の中で得た情報を基にそれぞれ細やかな気配りに

より大きな問題も起きることなくアンバサダーが笑顔で過ごせることが出来たのでしょう。

受け入れの期間中ホストが一息できることはとても貴重です。それは会員同士のコミュニケーションがうまく取れているからできる事と思いました。

交換委員もそれぞれ担当者が打ち合わせを重ね、準備良く進められスムーズに運ぶ事が出来、得意な分野ではアイデアを出し合い会員同士楽しみながら準備をしました。

おかげ様で無事に終わりホッとしておりますと同時に皆様に感謝の気持ちで一杯です。今後もお互い協力し合い楽しみながら交流をしたいと思います。私がEDとして努めることが出来ましたのは皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

カナダ(Fraser Valley Club) 20人渡航

2007年6月17日～25日 ED 沼 純子



バンクーバー Stanley Park

カナダのFraser Valley との交換には、埼玉クラブから20名が参加。夫婦が4組、初めてFFの渡航に参加した人が5名でした。

20名中11名が7泊8日のホームステイ後帰国し、残り9名は続けてカナダやアメリカを旅行しました。

Fraser Valley Clubは、バンクーバーから車で約30分のところにあり、1年くらい前にできた新しいクラブですが、私たちが心から歓迎していただき、お陰で大変充実した日々をすごすことができました。

もっとホストとすごす時間がほしかったという感想がかなり出ました。確かにもう1日フリーデイがあればよかったなと思います。



Farewell Party 花笠音頭

28名の会員で20名を受入れ連日、車で案内していただいたのですから、ホストファミリーは大変だったことでしょう。Fraser Valleyクラブのみなさんの熱意と行動力に、感服し、心から感謝いたします。

中でもEDで私たち夫婦のホストでもあったバーバラは純粋で一途で、彼女のFFへの燃えるような情熱に打たれました。「あなたと知り合えたことが今回の渡航の最高のお土産」という言葉を添えて、帰国後彼女にお礼のメールを出しました。渡航にせよ、受入れにせよ、暖かい心の触れ合いがFFの何よりの魅力です。

多くの方たちにこういう体験を味わっていただきたいと今強く願っています。

韓国 (Seoul Club) 16名渡航 2007年10月5日～10日 ED 佐藤 ゆきえ



北朝鮮との境 都羅山展望台

ソウルクラブとの交換が無事終わりました。

2004年6月、埼玉にソウルクラブをお迎えしてその後、直ぐにご招待を受けながら3年を経てようやく実現した交換でした。16名というやや小さなグループでしたが、5日間という短い日程を家庭生活を共にし、多くの人々と接してみると、今まで見えなかったことが多数見られた交流でした。

私自身、韓国の友人との長い付き合いでよく分かっていると思っていましたが、改めて強く印象に残ったことがありました。

「なんとおもてなしの人たちなのだろう！」ということでした。ホストに限らず、デイホストの人たちが、競って私たちを心から歓待してくださいました。グループで何処かに出かけたときでも必ずデイホストの人たちもついてきてくれ、昼食やディナーを「今日は私にご馳走させ

Seoul 青瓦台



てください」と代わる代わる申し出てくださいるのです。

そして、そのおもてなしの発想が私たちの想像を超えたものでした。「私は会員であっても普段仕事で忙しく、活動にあまり参加できないからこういう機会に私の出来ることで参加します」というものでした。

いくら日本に比べて食事代が安いからと言って15人分の食事代を一人で事も無げに支払ってくださるのには、ご馳走になった私たちはただただ驚くばかりでした。これが韓国人気質なのでしょうか。

これは、今回私がソウルクラブの多くの会員の皆さんに接したからこそ、初めて分かったことでした。

そして温かく迎える精神、自分の出来ることでFFに参加するという精神！この精神こそがFFの活動で一番尊い事ではないでしょうか。

実り多い交換でした。

アメリカ 16名 受入 2007年11月8日～11月15日 ED 堀内 美紀子
(Texas, San Antonio Club)



日光東照宮

今回は私自身忙しい日々の中、交換委員長(ED)を引受けましたが、委員の皆さんとホストの方々のご協力が無事に交換を終えることが出来ました。

アンバサダーの皆さんからはとても楽しく良い交換であったと感謝され、EDとして何よりも嬉しい言葉をいただきました。皆さんのご協力ありがとうございました。

16名のアンバサダーの年齢は81歳から平均70歳代のグループでEDも元気そうな78歳のコニーさんでした

がやはり腰が悪く体調をみながらの一週間でした。

フリーディーを三日とりましたのでゲストの皆さんには良かったのではないかと思います。

また、埼玉クラブとして初めてのプログラムだった日光江戸村は大変喜ばれ参加者46名全員が笑いあいの楽しい一日を過ごしました。

催しの最終日、盆栽村では高価な盆栽に目をまわくし、ゆっくり歩いて大宮公園のベンチで一休み、小さな日本庭園を散策しながら氷川神社へ参拝、境内には大輪の菊が飾られ、かわいい七五三の晴れ姿にカメラを向けていました。

参道から氷川の杜文化館のお庭で揃って記念撮影した後、皆さんでお昼のお弁当をいただきました。

午後の文楽観賞には目が釘付けになり、それぞれお人形と記念写真を撮った後は手作りケーキでさよならパーティーとなりました。そこではお顔だけでも30万円もするお人形を文楽の方のご好意でアンバサダーの皆さんは楽しそうに操作していました。なかには演じる時の特別な高下駄を履き江戸村で見た花魁の真似をするゲストがいて大いに盛り上がりました。参加者の皆さんは楽しいひとときを共にして再会の約束をしていました。最後に楽しい交換、交流をするにはホスト家庭交換委員会の委員同士の詳細に亙った打ち合わせ会員同士の気配り心配りの大切さを改めて感じました。

アメリカ Alabama, Huntsville Club

21名 受入

2008年4月1日～7日



ハンツビルクラブの受け入れを終えて

ED 稲垣 洋子

「とても素晴らしいプログラムでした」、「うちのホストは最高よ」ハンツビルのアンバサダーのうれしそうなお声に勇気をいただき、交換委員や協力者の苦労が報われた思いでした。さて、アンケートによると、ホストは全員「参加して意義があった」、「よかった」という回答でした。

また、アンバサダーが全般に少食で、中には年齢を感じさせないほど元気だったり、荷物が多すぎて移動に困ったり、突然血液の定期検査を受けたいと言われてあわてたりなどの事例もありました。反省会でもその違いを話し合っているうちに、クラブの中でも様々な考え方がある事を知って大変面白いと思いました。

違いはどこにでもあります。これを見つけて話し合うことにより、お互いの人間関係がさらに生き生きしてくるのだと気づきました。今後の交流に生かしたいと思えます。いろいろ皆様にご協力いただき、言葉に尽くせないほど感謝しています。

ハンツビルの受け入れをして

サブED 新井 ミキエ

3年近く前にAL、KYの交換に参加させて頂き今回はそのクラブの皆様がみえると言う事で、楽しみにしていました。が不覚にも風邪が悪化して肺炎を起こし、行事の合間を縫って点滴で凌ぎ、周りの皆様に助けて頂きました。咳き込むと止まらずジーンにうつらなければと思っていました。毎日が目まぐるしく過ぎて行き、又、早く何事もなく無事終わってくれるようにと祈る毎日でした。

実際、岐阜での不運な出来事が一歩間違えば我が家で起きて不思議ではない状態でした。岐阜のクラブは一人丸となって皆さんでジーンの入院生活を支えている様子を会長から伺い、楽しい時だけのフレンドシップ・フォースではなく、大変な事態になった時を、改めて考えさせられました。

普段より、埼玉クラブの皆様同士と力を合わせて受け入れたり、渡航したりしている中で、心通い合うお仲間になりたいものです。今回はいろいろ学びました。

ラトビア (Riga Club) 14名 渡航

2008年7月4日～12日

ED 岡田 一夫



昨年のお彼岸の頃に“ It's a Match ”が確定してから待ちに待つこと1年3ヶ月余り、去る7月5日に3年ぶりの、しかも先方ED・Silvijaさんのアドバイスにより、5年に1度の国家的ビッグ・イベントである“Song & Dance Festival”に照準を合わせた、リーガ・クラブとの感激の再会が実現しました。

前日にコペンハーゲン入りしてその日の夕方と当日の午前中、慌ただしく旧市街の見所を駆け巡り、夕刻に到着したリーガ空港で出迎えてくれたあの顔、この顔と出会ったとき、もう3年の歳月は吹き飛んでいました。

Raimonds・Irena, Gedertsons 夫妻の、広大な庭を持つ邸宅で行なわれた“Meet & Greet Party”に駆けつけました。先にリーガ入りしていた15名のニュージーランドのタウポ・クラブのアンバサダーも続々と集まりしばし数々の美味しい料理に舌鼓を打ち、ドリンクで喉を潤しながら

ら歓談のあと、3クラブ合同の“Exchange”の幕開けとなりました。この日から10日の“Farewell Party”と最終日の11日まで、1万人以上の参加者によるパレードや素晴らしい歌と踊りに酔いしれながら、連日いただいた数々の、心温まるもてなしには本当に感謝の言葉もありません。

僅か20数家庭の小さなクラブながら、有名なフェスティバルに合わせて、総勢29名という大人数の受け入れを実現するには、さぞ大変なご苦勞や全会員の協力、用意周到な準備があったことでしょう。そのことを肝に銘じつつ、参加者14名を代表して、改めてリーガ・クラブ全会員の皆様に心から感謝する次第です。

末筆ながら、3年前の我が家のもてなしに比べ、毎日とことん精力的に尽くしていただいたホスト・ファミリーの Uldis・Vita Briedis 夫妻とお嬢さんのIevaに深くお礼申しあげます。

台湾 台中俱樂部 19名受入 2009年3月24日～30日

ED 池田 完之



3月24日に来日した彼らは、気象庁発表の桜の開花3月21日にうまい具合にミートした筈が あいにく23日夕方から寒波が到来、その寒いで27日に日光ツアーに参加しました。

東照宮と田母沢御用邸を経て中禅寺湖に着くと温度0℃で雪が舞う始末、暖かいところから来た人達が体調を崩すのでないかと本当に心配しました。

しかしながら、雪が舞うのを珍しく感じ 興じた人もおり救われた感じを持ちました。

他国との交流の中では思いもよらぬ事があるものだと得心しました。

今回も 日程やアンバサダーの数がなかなか決まらない等、準備段階から色々なハプニングや行き違いがありましたが、その都度 会員の方々の大きな力に支えられ、結果的には台中俱樂部の方々に大変喜んでいただき、



両クラブの友情も培われ また埼玉クラブも大いに楽しんで今回の交換だったと思います。

特に、出席者80名以上のフェアウェルパーティーの大ご馳走に加え マジックショー、初めての試みのハワイアンバンド演奏とそれをバックに日本唱歌を一緒に合唱したり、台湾書道、太極拳剣舞、台中飛入りの独唱、岐阜クラブの方を加えた埼玉・台中クラブ員による台湾民族舞踊など 両クラブ自慢の余興に大いに盛り上がり、お互い更に理解を深めることができました。

今回 台中EDとのコンタクトから帰国見送り・反省会まで携わり、埼玉クラブの多士済々且つ 国際友好・親善に対する強い気持ちとその実行力に本当に感心致しました。

今後も埼玉クラブの皆様と一緒に、より良い交換体験をしていきたいと願っております。

ニュージーランド 20名 渡航 2009年10月30日～11月14日

ED 新井 ミキエ

(Horowhenua Club および Wellington Club 訪問)



出発までの8ヶ月間毎日パソコンを開ける緊張感を楽しました。

両方のクラブのEDとFFIとの連絡・送金等何もかもが初めての経験でしたが、一人ではないので不思議と不安はありませんでした。沼さん五十嵐さん交換委員の皆さんがしっかりと支えてくださり、両方のクラブのEDと会長初め、ホストとアンバサダーの皆様のご協力のお陰で大きな混乱もなく楽しく、有意義な交換ができました。

前半の日本人が初めて訪れるホロフェヌアのクラブでは、レヴィンの市長を表敬訪問しました。

市庁舎玄関には日の丸を掲揚してくれ、茶話会、写真撮影等小さな町の温かなおもてなしを受けました。

レヴィンから1時間路線バスに揺られていくと後半のウェリントンです。

映画、ラスト侍 ロード・オブ・ザ・リング等の舞台を案内説明して頂いたり、又ホストとアンバサダーの車が連なり北島の最南端の海岸線をドライブをして、252段の灯台に全員で登り、南極が1番近い場所からの展望を楽しんだり、あざらしが7～8頭浜辺に上がっているすぐ傍までも行きました。

両クラブのフェアウェルパーティーは何時もながらの盛り上がりで、FFの絆をしっかりと感じました。

日頃の各 FF クラブの活動の積み重ねと会員相互の信頼感の表れと思いました。

カナダ Penticton-Okanagan Club 18名 受入 2010年4月1日～8日 ED 岸田 正二郎



今回の受入れは Canada 以外3カ国、又同じ Canada でも主催クラブ以外からの参加があり、変化に富んだ人員構成でした。それ故にEDは大変苦勞している様子でした。また、18人中男性が唯1人で、しかも平均年齢が70歳を越える高齢の女性集団であることも特徴でした。

桜の開花宣言が早くにあり、アンバサダーが来日の頃には花は終わっているかとも思われましたが、開花直後の寒さで滞在中に丁度満開になり、フリーデーには公園等桜の名所で満開の桜の花の下で宴を開く沢山の人々や、素晴らしい日本の春の様子を見て、自分達もその中に入って屋台で買った団子・田楽・焼き鳥等を食べながら花見をしたことは永く記憶に残るのではないかと思います。日本文化の体験では、今迄にはない本格的な茶道の体験をしてもらいました。

その厳肅さと、奥床しさに強く感動した様子でした。



あいにくの雨の日光ツアーでしたが 東照宮では初めての試みとして、会員の持つ特技を生かし、会員以外の方の協力も得て、少人数のグループに分けての英語での説明は大変良かったように思います。

雨にも拘らず楽しく終えることができました。

多国籍の人員構成になった理由は、主催クラブだけでは人数が足りずネットで募集した為で、EDとの初対面が成田空港であったり、到着翌日のウエルカムパーティーであったりと意思の疎通には苦勞があったようです。

また来日の際、4便に分かれての到着だった為 こちらも成田出迎えには苦慮しました。

ホストをはじめ各交換委員・各会員の方々の、アンバサダーを迎えて心地よく楽しく過ごさせてあげようと言う気持ちと行動があつて、楽しく過ごした一週間だったと思います。

オランダ 9名渡航・3ヶ国交流
(Netherland East Club 訪問)

2010年9月7日～14日

沼 純子



オクラホマクラブのオランダ渡航に埼玉クラブから9名が参加。

オランダとアメリカと日本の3カ国交流という大変貴重な経験ができました。

Netherland East Club ホームステイ中には、ゴッホ美術館、国立公園、チーズ工場、木靴工場見学などのほか、お花の国オランダらしい豪華な Flower Show にも連れて行ってもらいました。

とりわけ印象深かったのは Culture Day の三か国文化交流です。オクラホマから参加したインディアン(アーティスト)のインディアンの歴史や現状についての話、

フラワーパレード ダリアの花の山車



オランダのクラブの会員の素晴らしい絵画の数々、そして日本からは新井さんが三か国の国旗の三色を用いた"Friendship"を表現。海外での生け花デモという大役を見事に果たしてくれました。

日本とは400年の交流の歴史があるオランダで、心のこもったもてなしを受け感動の日々でした。

小林さんと郡山さんが企画したホームステイ後の観光は、アムステルダム(アンネ・フランクの家やゴッホなどの美術館めぐり)、ベルギーのアントワープとブルーージュなど、もっともっと長く滞在したいと思いつつ帰途につきました。

アメリカ 17名 渡航 2010年10月1日～10月15日
(Oregon's Mid Willamette Valley club 及び Iowa の Dubuque club 訪問)

ED 池田 完之



初めての渡航EDだったが 通訳の稲垣さん初め参加者の皆さんに支えられ 又、両クラブのED並びに会長とホストに、そして天候にまで 恵まれ 楽しい交換となった。

1週目は西海岸のオレゴンで本拠は州都Salemとその周辺。

到着日10月1日の観光ツアーで見所を満喫、2日目の会長宅のWelcome Partyで一挙に親しくなり その後の交換がより楽しいものになった。

出立前の7日は州議会を表敬訪問、その後のHalloween Costume & Farewell Partyは 日本及び地元の仮装で一緒に楽しんだ。

2週目は中西部のアイオワ州ダビューク市でミシシッピ川に沿ったCorn Belt 地帯。



到着日10月8日の地方紙に我々17人の埼玉訪問団の記事が載り、読んだDubuque市民がいろんな所で我々を歓迎してくれた。

また、Dubuque市議会に市長を表敬訪問、同市長及び さいたま市長相互の親書を交換した。

ミシシッピ河畔でのWelcome Party、Cocktail Cruise 及び 川を遠望するカシノのレストランでのFarewell Party等を通じ 地元の人が愛するミシシッピ川とその周辺の豊かさを堪能。

今回はアメリカ西海岸と中西部の2クラブとの交換で、彼らの優れたホスピタリティに感銘を受けた。

また 多くの人と友情を育みFFのミッションを果たす事が出来たと思う。

世界大会で多くの友人達と再会 2011年8月26日から30日 野澤 明子
(ドイツ ハンブルグの世界大会に21名が参加し、ロードランナー賞を受賞。岸田副会長が挨拶)



初参加の世界大会で多くの友人達と再会しました。2000年、上野のホテルまで通い、5日間、東京案内のお手伝いをしたのが、ハンブルグクラブとの出会いであり、埼玉クラブ会員として私の初めての活動でした。

ハンブルグ空港で11年ぶりに再会したLenke夫妻は、世界大会後のホームステイのホスト、Evaは、デイホストとして市内案内や自宅でのアフタヌーンティー、ウェルカムパーティーで、再会したHoops夫妻からのディナー招待など、なつかしい多くの方々との時間を過ごしました。

また、埼玉クラブが受け入れたドイツのコトブスやリュールベッククラブの方々にも お会いすることが出来ました。

日本での思い出のアルバムやプレゼントを飾り、歓迎して下さった暖かい気持ちは、今でも忘れられません。

世界大会では、全体会、ワークショップ、ウェルカム、ガラパーティーなどを通して貴重な体験、新しい出会いもありました。改めて友情を結ぶフレンドシップ・フォースの活動のすばらしさを実感しました。

ホームステイ後、ベルリンの地下鉄構内で、偶然会った女の子!(9年前、当時、15歳)、彼女は、埼玉クラブが、アメリカの交換で一緒になったコトブスクラブの会員でした。

これからも 数々の出会いと感動を大切に FF活動に参加していきたいと思っています。

アメリカ オレゴン 受入 2011年10月27日～31日
(Mid-Willamette Valley Club 14名受入)

ED 西村 純枝



大事なお役しかも初EDであったのにも拘わらず、私のモチベーションはただ一つ。

逢いたいなー！オレゴンの方たちに。その思いだけでEDをお引き受けしたような次第。

去年10月埼玉クラブの17人はドイツからの返答が不確かな中、受入れを快諾して下さったオレゴンのウィラメットクラブを訪問した。丁度ハロウィーン時期でもあり日本では楽しめないような大人のイベントを企画、又素晴らしい海辺のキャンプ・コテージでの優雅なひと時など心のこもった受入れをしていただいた。

時はあつという間に流れ、3月の東日本大震災・地震、

津波、放射能への不安。

悪夢は日本を覆い外国からの方々は日本を離れFFでも春からの交換にキャンセルが相次いだ。そんな中勇敢なオレゴンチーム14名は何事もなかったかのように義捐金を携えてたった4日間のために私たちを訪ねて下さった。友達でなかったら誰が円高や数々のリスクを押してまで私たちを訪ねてきてくれたらどうかと篤い思いに満たされた。

そんな時にEDをやらせていただいたことをそして、無謀な初EDを懸命に助けて下さった仲間みなさまや夫には頭が上がらない日々が続くと思う。

タイの Asia Pacific Festival に 11 名参加

2011年11月7日～17日

沼 純子

Hariphunchai Temple



チェンマイクラブ会員と



2年に1回のアジアパシフィック フェスティバルは、今年タイのチェンマイで行われました。日本、アメリカ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダから合計78名、埼玉クラブからは11名が参加しました。

バンコクから700キロ離れた現地では洪水の影響もほとんどなく、4日間のフェスティバルとその後の4日間のホームステイも順調で、楽しい活動が満載。

とりわけランプーンの光の祭典は熱気球、精霊流し、花火、パレードと熱気あふれる見事なものでした。

私たち日本人は浴衣姿で、フレンドシップ・フォースの

バナーを手にパレードに参加しました。

象保護区で象に乗ってゆらゆら川沿いを進んだり、熱帯林のトレッキングも良かったです。最も印象に残るのは、現地の高校を訪問して、タイ料理を教わったり、日本語を学んでいる生徒たちと交流できたことです。

日本語の本をそれぞれ持ち寄って寄贈し、水害見舞金を寄付いたしました。

タイ北方3市を挙げての大歓迎や、ホストファミリーの暖かいもてなしに心から感謝しています。

アメリカ 16名 受入 2012年3月30日～4月6日
(North Carolina, Shelby Club)

ED 高橋 京子



咲本一家とMorgan 夫妻



皇居にて

皇居 北の丸公園(Shelby Clubと2012.4.2)



川越「まつり会館」

2010年ワシントンDCでの“世界大会”ホームステイでShelbyにお世話になった事で、初めてEDをすることになりました。

英語もパソコンも若葉マークの私でも、多くの方々から楽しんで頂けたとの声を頂いたのは、全くみなさまのお力添えに依るものと感謝に堪えません。この時期の最高のおもてなしである筈の桜も咲かず、はらはらドキドキでしたが、お天気と幸運に恵まれた交換でした。

第1日目一出迎えは空港でややこしい(!?)初めてのレールパスの手続きがありました。幸運にも羽島さんという専門家のお力でスムーズに運びました。

第2日目一午前中の日本文化の紹介も多彩な内容ながら、手際よくまとめられ、素晴らしかったと思います。

午後のウェルカムランチは“道山閣”でゴージャスな雰囲気を楽しみました。

第3・5・7日目はフリーデー

第4日目一都内バスツアーはこの春一押しの隅田川からのスカイツリー、東京ゲートブリッジを体験し、浅草、浜離宮と初めてのコースでした。

第6日目一フェアウェルパーティーは会員お得意のポトラック形式で今回初めて「マイ箸・マイコップ・マイ皿」とエコへも取り組みました。美味しいご馳走、楽しいゲーム、多くの参加者があり盛り上がりました。

第7日目一見送りは東京駅で別れを惜しみました。

この間、ホストの方々の連日の心からのお世話があったこと！拙いEDを多くの方々をサポートして下さいました！FFならではの貴重な体験をさせて頂きました！

イギリス・ベルギー 28名 渡航 2012年5月23日～6月8日
(UK, Leicestershire Club に20名訪問 及び Belgium, Leuven Club 18名訪問)

ED 稲垣 洋子

レスターシャクラブとの交流のみ参加者8名、リューバンクラブのみは6名(他2名はキャンセル)、12名は両クラブに参加という変則的な渡航に加え、初めて渡航の新会員が、3分の1も含まれています。

まず、新会員に他の会員と同様にホームステイや先方のプログラムを十分に楽しんでほしいと思いました。

そして、不安を取り除き、現地へ行っても積極的に行動できるように、

1) ワークショップは3回きちんと出席してもらいました。(イギリス参加者は4回)

2) ジェフさんが、和食を作ってもらえないかと提案してきたときに、日本人どうしてではなくホストとともに作らせてほしいと申し出ました。

‘折り紙’‘書道’‘盆踊り’も食後に提案しました。

3) 今回 は、なるべく新入会員に インストラクターやMC(司会)をまかせました。みんな一生懸命



英国 Japanese Evening 日本食



ベルギー、Linde 小学校訪問

役に取り組み、参加者全員が盛り上がり、楽しく‘JAPANESE EVENING’を過ごしました。

リューバンクラブのプログラムには、‘小学校訪問’という項目がありました。

さっそくEDのヒロさんに‘生徒さんたちと接する機会がありますか？折り紙ややさしい日本の歌など披露できます。と申し出ました。

しかし当日小学校の門をくぐるまで10クラスもあり、その全部を回ることは、知りませんでした。

突然でしたが、その場でアンバサダーが2、3人ずつグループになり、各クラスを受け持ちました。

新聞紙でカブトを作り、頭に載せて大喜びでした。

さて、交流も無事終わった今、レスターシャクラブ、リューバンクラブとの交流に力を貸していただき、勇気付けていただき、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝いたします。

オーストラリア 20名受入 2012年9月14日～9月21日 ED 新井 ミキエ
(Mt. Barker Club and Salisbury Club)



ウエルカムパーティー

南オーストラリア州のMt.バーカー&ソールズベリー2つのクラブと 9月14日から21日まで残暑の中、交換が行われました。

Mt.バーカーはオーストラリアで初めてFFが立ち上がって、この9月で創立30年のベテランクラブです。

ソールズベリークラブは少し遅れて設立され、埼玉クラブとは今回、3回目の交換です。”出合いは宝物”、長い間親交を深めた再会を喜び合いつつ、新旧会員共に楽しい交換ができました。6月、会場の抽選にことごとく外れ、ウエルカム・フェアウエルパーティー両会場とも初めての場所になりましたが、埼玉クラブは凄い！素晴らしい！。

交換委員の皆さまは明るく伸び伸びと、それぞれのポジションで力を発揮してくださり、個性豊かに活躍してくれました。勝手が違う場所にも拘らずいつもと同じように、又、予算内にピシッと決めてくれました。平均して女性のアンバサダーが多い中、今回は男性にも楽しんで貰おうと発案し、サブ ED の岩崎さんのご縁で合気道を紹介する事ができました。

90名を超えるウエルカムの参加者の皆さんの中、大柄なアンバサダーにも合う大きな振袖・留袖も用意され、満面の笑顔で番傘を差して、ファッションモデルさんながらの日本民族衣装パレードは圧巻でした。

バス旅行も遠来の友をもてなすデイホストと共に世界

遺産の日光を1日訪れ、英語の案内を受け、よく理解？された事と思います。

フェアウエルパーティーもゲーム・マジック・ハーモニカ伴奏の歌に花笠音頭、アンバサダーの誕生日祝い・自分の書いた書に漢字の名前を入れて表装してもらいニコリ・ウツリするアンバサダーの皆さん。

盛りだくさんの催しを新旧の友人達と別れを惜しみつつ、楽しみました。

EDのデイビッドの申し出により、世界平和を願う千羽鶴として広島の世界大会に届けてくれるように、とアンバサダーとホストで折った152の鶴を広島に郵送しました。

オプション行事も、日本料理・生け花・折り紙教室、盆栽美術館・四季の家での茶道体験の他に、中学校の授業にアンバサダーが参加して若い学生と交流ができた事は双方の良い思い出となるでしょう。

パーキンソン病を患いながら1日5回薬を飲み、11週間の旅行を続ける方や85歳のアンバサダーには、ただただ脱帽です。

EDのデビッドとジョンとの半年に渡る交換準備のメールから始まり、沼会長、サブED3人を初め、多くの交換委員に助けられ、無事に滞りなく終了する事ができました。1人の力では出来ない、皆の大きな友情の絆を、作る事ができました。

誠にありがとうございました。

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局

〒331-0815 さいたま市北区大成町4-202

TEL : 048-664-2723 FAX : 048-664-2723

編集委員

池田 完之、斉藤 文子、西村 介延、羽島 継男、原田 史、

平井 義明、堀切 京子

発行日：2012年12月20日